

MDC-50Ab マルチデバイスコントローラ

取り扱い説明書

(Ver.S0130)

武蔵株式会社

平成 20 年 1 月

目次

1.概要	4
2.特徴	4
3.パネル各部の機能.....	5
4. 背面パネル各部の名称.....	10
5. 機能と操作方法	11
5.1 CUE 操作方法.....	11
5.1.1 CUE の登録.....	11
5.1.2 CUE の呼び出し	12
5.1.3 CUE の削除.....	12
5.1.4 CUE の修正.....	12
5.1.5 CUE の SAVE	13
5.2 GOTO 機能.....	13
5.3 TML 機能	13
5.4 同時記録再生機能.....	14
5.5 簡易編集機能 操作方法	15
6. Disk Soft 使用時の機能と操作方法(拡張機能)	17
6.1 CoupLing 機能.....	17
6.1.1 CoupLing 機能の設定	17
6.1.2 その他の設定.....	19
6.2 Disk Recoder 使用時のファイル管理.....	20
7. GPI機能と操作方法	21
7.1 機能説明	21
7.2 ピンアサイン詳細.....	21
7.3 設定方法詳細	22
8. PAL 対応.....	24
9. メニューの設定及び操作方法.....	25
9.1 メニューの操作方法.....	25
9.2 メニューの保存と読み出し方法	26
9.2.1 メニューの保存.....	26
9.2.2 メニューの読出し	26
9.3 メニュー一覧	27
9.4 エラー表示.....	39
10.仕様	40

MDC-50Ab マルチデバイスコントローラ

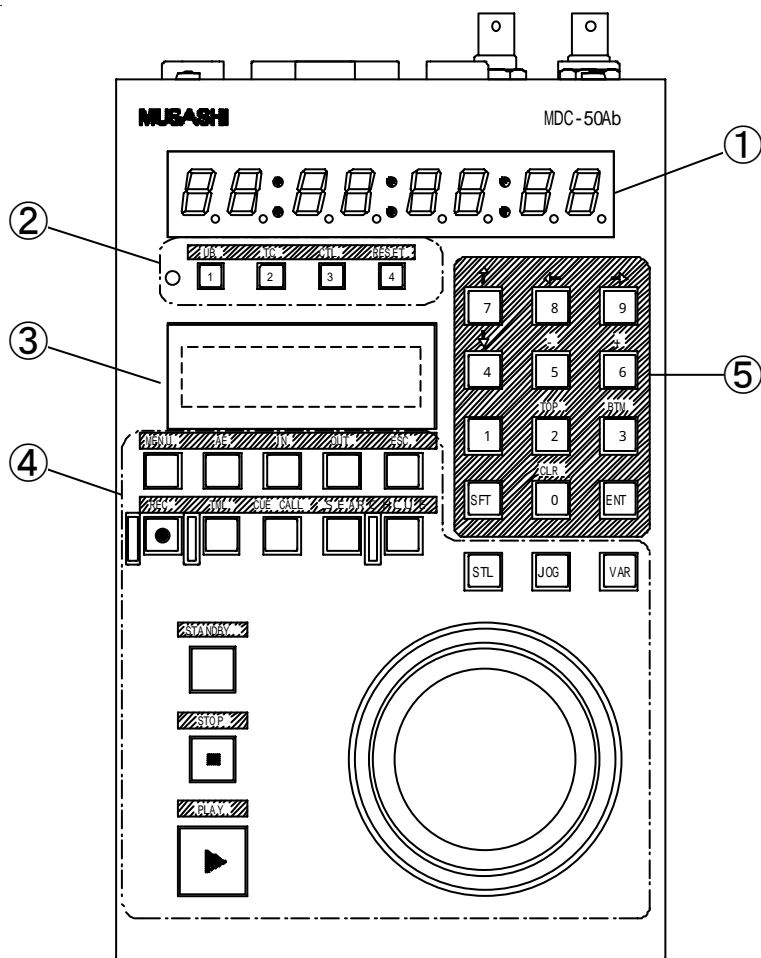
1.概要

MDC-50Ab は、VTR のリモートコントロールを行う装置です。
PLAY/ STOP/REC/ST-BY/JOG/SHUTTLE 等の制御を RS-422 により行います。
制御ポートは VTR ソフト標準で 1 ポート、DISK ソフト標準で 2 ポート、増設により最大 4 ポートまで拡張でき、切替により 4 台の VTR を制御できます。
JOG/SHUTTLE ダイアルを備え編集点の確認等が容易に行えます。
また、タイムコードを利用した CUE 登録が可能で迅速な番組の頭出しが可能です。

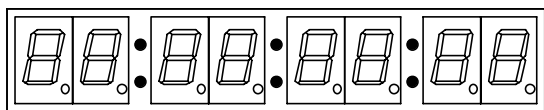
2.特徴

- ・ 見やすい7セグメント LED TC、UB、CTL の表示
- ・ 簡単な CUE 登録と CUEUP 操作
- ・ 増設により最大 4 ポートまで拡張できます。
- ・ 1 ポートあたり CUE MODE 1 700 個, CUE MODE 2 90 個,
TML MODE 700 個の CUE 登録が可能です。
※DISK ソフト撮って出し使用時は、2ポートで上記登録数になります。
- ・ テンキーによるタイムコードをダイレクトに打ち込みが可能
- ・ 同時 REC/ PLAY/CUE UP が可能(※調相はしていません。)
- ・ 液晶表示によるメニューで多彩な機能を実現。
- ・ JOG/SHUTTLE ダイアルを備え CUE 点の確認等が容易
- ・ GPI を備え外部から PLAY/STOP/REC させることが可能です。

3.パネル各部の機能



① 7セグメント LED 表示部



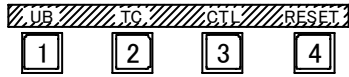
8桁の7セグ赤色LEDを配置し、RS-422にて読み取った現在値のUB、TC、CTLの各データを切替により表示します。切替は表示器の下に配置されたスイッチで行います。

CTL表示時は、RESETスイッチを押すことにより0リセットされます。

また、メニュー”C00B1:CTL DSOMOD”により24H/12H表示の切替が出来ます。

TCの設定(VITC、LTC、AUTO)は、VTRの設定によります。

②-1 LED 表示切替スイッチ／制御ポート切替スイッチ



LED 表示部の表示内容を変更します。UB 表示、TC 表示、CTL 表示の各スイッチと CTL 表示時の RESET スwitchの 4 つスイッチがあります。RESET 押下時はメニュー CtlPresetTc で設定した値 00:00:00:00～23:59:59:29 (Def=00:00:00:00) が CTL にプリセットされます。TC + RESET 押下時はメニュー LtcgPreset で設定した値 00:00:00:00～23:59:59:29 (Def=00:00:00:00) が LTC Gen にプリセットされます。また、本スイッチは制御ポート切替スイッチと兼用している為、オプションの RS-422 ポートを増設した場合、SFT スwitchを押すと制御ポート切替が可能になります。

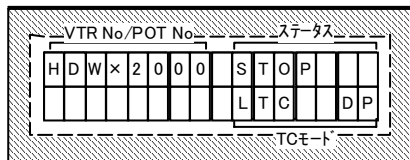
<表示の切替>

通常表示の時、“LED 表示切替スイッチ”と“制御ポート切替スイッチ”の表示の切替が可能です。メニュー一覧の CONSOL-SelSwMod を参照して下さい。

②-2 リセットスイッチ

- ハードリセットをするときに押下します。

③ 液晶表示部



16 桁 2 行のバックライト付き液晶表示器を使用し、メニュー、ステータス、入力データ等の表示を行います。

④ 各種スイッチ部

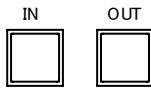
④-1 メニュースイッチ

- MENU 本スイッチ点灯中はメニューモードとなり、液晶表示にメニューが表示されます。再度押すと通常モードになります。

④-2 AE スwitch

- AE 本スイッチ点灯中は簡易編集モードとなり、簡易編集が可能です。再度押すと通常モードになります。簡易編集の操作方法は、5. 5項を参照して下さい。

④-3 IN スイッチ/OUT スイッチ



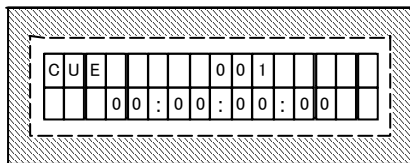
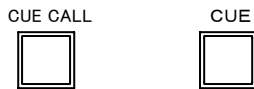
本スイッチは、簡易編集モードとTMLモードの時の TC (または CTL) データを登録するスイッチです。本スイッチ点灯時は、TCデータが一時的に登録されます。再度押すと押した時間が再登録されます。

④-4 ESC スイッチ



メニュー操作時に現在入力中のモードを解除し、1 つ前の状態に移行します。各モードをぬけるときに使用します。

④-5 CUE スイッチと CUE CALL スイッチ



CUE スイッチ…CUE を登録するボタンです。

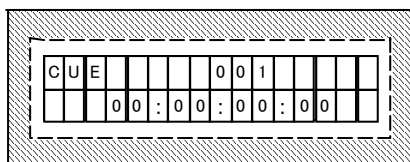
CUE スイッチを押すと CUE が登録され液晶表示部で確認する事が可能です。

CUE CALL スイッチ…本スイッチ点灯中は CUE モードです。

CUE スイッチを押すと自動的に点灯して CUE モードに入ります。再度、本スイッチを押すと通常モードになります。


※詳細はCUE操作方法を参照して下さい。

④-6 SEARCH スイッチ

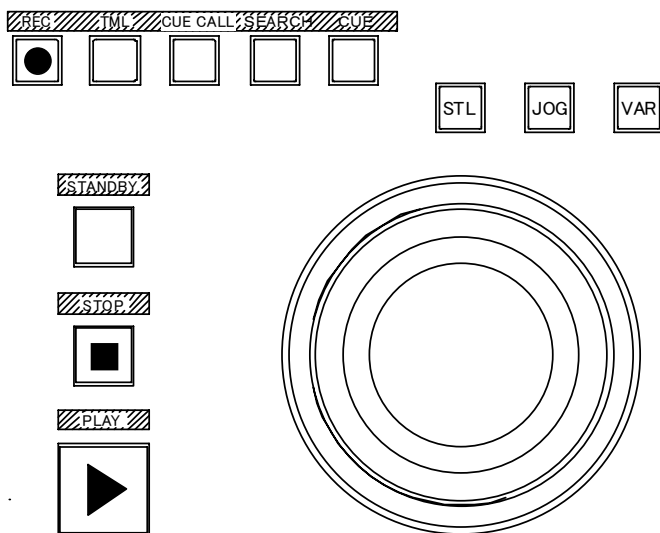


液晶表示器に表示したTCデータへの頭出しが可能です。

④-7 TML スイッチ

 TML 本スイッチ点灯中は、TML モードになります。TML モードとはIN/OUTスイッチで登録したTCデータの間を再生します。
※詳細は TML 機能を参照して下さい。

④-8 REC、STOP、PLAY、STANDBY、VAR、JOG、STL、各スイッチ部



STANDBY スイッチ

スタンバイ制御を行います(以下 ST-BY)。ST-BY スイッチを押すと ST-BY ON になります。SHIFT+ST-BY スイッチを押すと ST-BY OFF になります。また、メニュー”StbySwMod”により、ST-BY スイッチを押す度に ON/OFF(トグル動作)させることが可能です。

REC スイッチ

REC+PLAY で REC を開始します。本スイッチのみ押下するとEEモードになります。

STOP スイッチ

STOP 動作します。制御ポート切替スイッチ+STOP で VTR のテープを EJECT することが可能です。(VTRのみ)※EJECT を使用する場合は MENU の SelSwMode を PortSel に設定することを推奨します。

又、REF 検知を行う事が可能です。本機 MENU の設定で、CONSOL>StopSwDisp を”RefSts”に設定すると、設定している REF と違う REF 信号が入力された時、StopSw が点滅して警告します。

(REF 信号が入力されていない時は、点滅しません)

PLAY スイッチ

PLAY を開始します。メニューの設定により、PLAY コマンド送信時に PB 状態に切替える／何もしないが選択出来ます。(メニューPbEeMod)

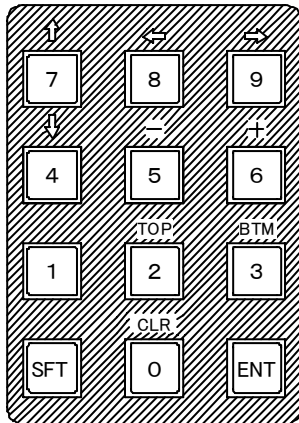
VAR/JOG/STL スイッチ

VAR、JOG、STL は、ジョグ/シャトルダイヤルの動作モードを決め、ダイヤルの操作により VTR を制御します。メニューにより禁止がかけられます。(メニュー Jog/ShtiDis)

JOG/SHUTTLE ダイヤル

JOG、SHUTTLE、VAR、の各制御を行います。JOG/SHUTTLE の切替は、JOG、SHUTTLE、VAR のスイッチ操作で行います。メニューにより禁止がかけられます。(メニューJog/ShtiDis)

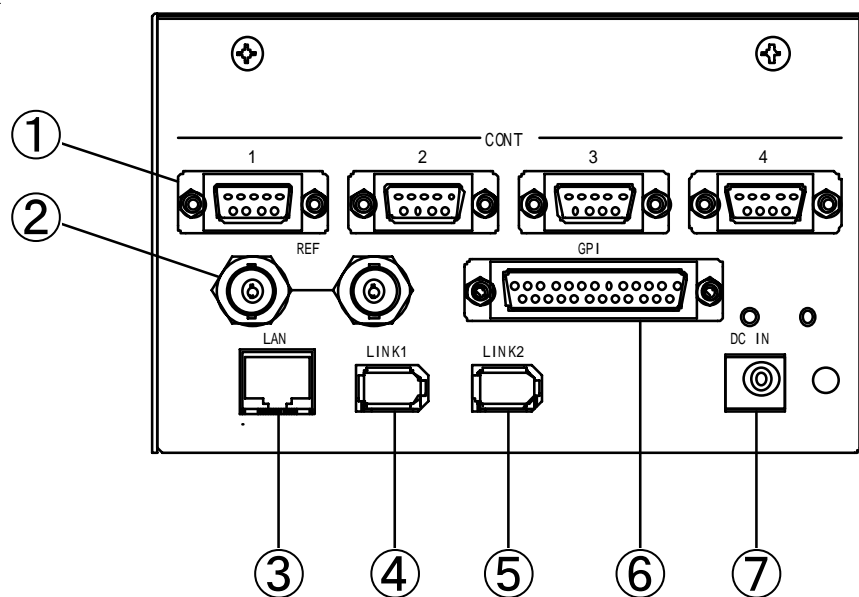
⑤ テンキー部



数値データの入力、CUE 点の呼び出し、メニュー時の操作、等の機能を有します。通常は、ボタンに表示されているものが有効になります。SHIFT ボタンを押すとボタン上部に表示されているものが有効になります。

※MENU/AE/CUE/TML モード時は SHIFT 状態が保持されます。もう一度 SHIFT ボタンを押すと解除されます。

4. 背面パネル各部の名称



CONT (Dsub9F 座コネクタ) × 4

RS-422 制御 VTR 及びディスクレコーダーと接続します。

VTR ソフト標準 1 ポート、ディスクソフト標準 2 ポート、オプションで RS-422 を 4 ポートまで増設可能です。

REF (BNC コネクタ)

NTSC/PAL REF 信号を入力します。(ループスルー付き)

※本機を PAL 環境で使用する場合には MENU"SYSTEM > \$SysFrmTyp"

を PAL に設定変更して下さい

LAN (RJ45 用モジュラーコネクタ)

パソコンと接続してバージョンアップ等に使用します。

④⑤ LINK1/LINK2

弊社 DCP-1000 接続時、又は、バージョンアップ等に使用します。

⑥ GPI (Dsub25F 座コネクタ)

メニューにより設定します。

DC IN

DC 電源を接続します。

故障の原因となりますので専用のACアダプターを使用して下さい

5. 機能と操作方法

5.1 CUE 操作方法

VTR などのタイムコードを MDC-50Ab に記憶させ、頭出しを行うことが可能です。(以後 CUE と呼ぶ) 登録方式として下記2つの方式がありメニューの設定により切替が可能です。

※設定はメニュー一覧の CONSOLE-DefCeuModeSel を参照して下さい。

MODE1…CUE ボタンを押下すると CUE が登録されます。(各ポート 700 個)

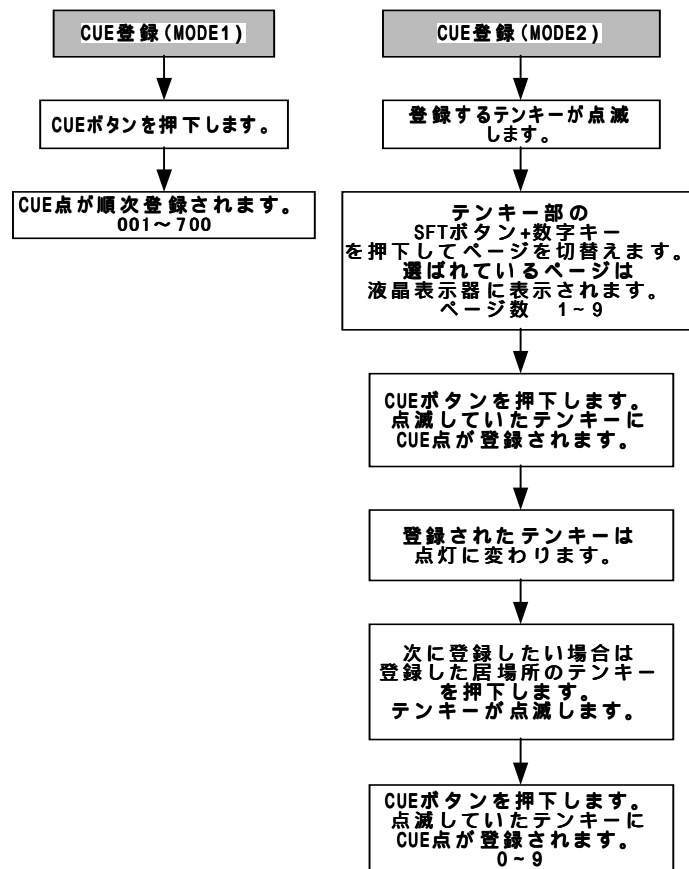
MODE2…CUE をテンキーに登録することが出来ます。また、SFT+テンキー

(1から9)でページを切替えることが出来ます。

(各ポート 90 個)ページ表示は、液晶表示部に表示されます。

5.1.1 CUE の登録

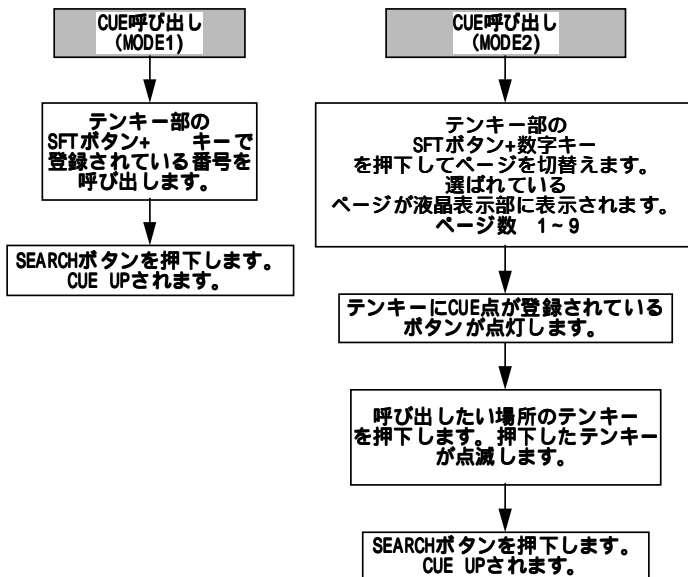
VTR を REC または、PLAY させ CUE 点を登録させます。CUE ボタンを押下すると CUE 点が登録され、CUE モードに入ります。CUE モードに入ると CUE CALL ボタンが点灯します。CUE モードを出る場合は、ESC ボタンを押下するか CUE CALL ボタンを押下して下さい。他のモードに入る場合は、必ず CUE モードを出てから他のモードに入ってください。



5.1.2 CUE の呼び出し

CUE の呼び出しは、SEARCH ボタンで呼び出す方法と、テンキーの SFT+ ←/→でも SEARCH ボタン同様 CUE の呼び出しが可能です。(メニュー設定による)

※CUE モードに入ると SFT キーが保持されます。



5.1.3 CUE の削除

CUE データが登録されているテンキーを押すと液晶ディスプレイ上に登録されたデータ (TC)が表示されます。その時点で SHIFT を押しながらO(CLR) ボタンを押すとそのデータが削除されます。

5.1.4 CUE の修正

修正したい CUE 点を CUE UP します。PLAY 側を選択して、JOG/SHTL 等を使って CUE 点を探します。CUE 点が決まったら SHIFT + CUE ボタンを押下します。CUE 点が修正されます。

※CUE モードに入っている時は、SFT ボタンが点灯し保持されています。CUE の修正を行う場合は、SFT ボタンが点灯していても SFT ボタンを押下しながら CUE ボタンを押下してください。

※メニューの CueInsMod”設定が OVW になっているときのみ上書きが可能です。

※Mod1 の時 CueInsMod を参照して下さい。

※Mod2 の時 CueAutoIns を参照して下さい。

5.1.5 CUE の SAVE

電源を切る場合登録した CUE 点等をセーブして残しておきたいときは、電源を切る前にメニューのデータセーブに入ってセーブ作業をして下さい。

※設定はメニュー一覧の CONSOLE の SaveEve&Cue で行って下さい。

5.2 GOTO 機能

テンキーでタイムコードを打ち込み SEARCH ボタンを押すとそのタイムコードの位置に頭出します。

※CUE MODE に入っていないことを確認して下さい。

5.3 TML 機能

CUE 点を IN 点と OUT 点で登録するモードです。VTR を REC または、PLAY などさせ CUE 点 IN/OUT を登録させます。TML ボタンを押下すると TML モードに入ります。IN/OUT ボタンを押下し、IN 点と OUT 点を決め ENT ボタンで決定します。TML モードを出る場合は、ESC ボタンを押下するか TML ボタンを押下してください。他のモードに入る場合は、必ず TML モードを出てから他のモードに入ってください。再生は、テンキーの ↑/↓ で CUE 点を呼び出し、SEARCH ボタンで CUE UP し、PLAY ボタンで IN 点から OUT 点まで再生します。

※IN 点から OUT 点までの再生は PLAY ボタンを押した時のみになります。

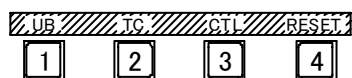
VAR/JOG/STL では OUT 点で止まりません。

※IN/OUT 登録機能など OUT 点で STOP させる機能を利用される場合は、本機に REF を入力して下さい。REF が無いと停止位置がずれる場合があります。また、RS-422 メニューの "StopTmg" と "StillTmg" を調整して、OUT 点ジャストで停止する様にして下さい。"StopTmg" は、"StopCmdSel" が "Stop" の設定の場合に関係します。"StillTmg" は、"StopCmdSel" が "Stop" 以外の設定の場合に関係します。なお、"StillTmg" は、"StopCmdSel" を "SHTL~"、"JOG~"、"VAR~"、と変更した場合は設定しなおす必要があります。(大体の VTR は同じで済むと思います)

※テンキー「←」ボタンで IN に CUE UP「→」ボタンで OUT に CUE UP します。(MENU 設定 If/RtCupEna を参照して下さい。)

5.4 同時記録再生機能

メニューの設定をすることにより、設定されたポートが同時に REC/PLAY/CUE UP します。ポートの選択方法は、ポート選択ボタンで同時動作させたいポートを選択(点灯)させ、REC/PLAY/CUE UP の操作を行います。



メインメニュー**CONSOLE** の”**PortCtMode**”を”**ParaSel**”に設定します。PORT ボタン5秒押し下してマスターになる VTR を選択します。選択した PORT ボタンが点滅します。同時に REC/PLAY/CUE UP させたい VTR の PORT 選択ボタンを押下します。選択したボタンが点灯します。

REC/PLAY/CUE UP 操作を行うと選択された VTR が同時に動作を開始します。

基本操作は、前に記載している操作と同じです。

CUE UP に関して、メインメニュー**CONSOLE** の”**ParaSchMod**”で、マスターのタイムコードで一斉 CUE UP するか、あらかじめ各ポートで登録している CUE 点を CUE 番号で一斉 CUE UP するか設定できます。

※オプション等で RS-422 ポートが複数ある場合有効になります。RS-422 ポートが

1ポートしかない場合は、通常動作と同じ動作しかしません。

※このモードを使用するときは、REF を入れてください。

5.5 簡易編集機能 操作方法

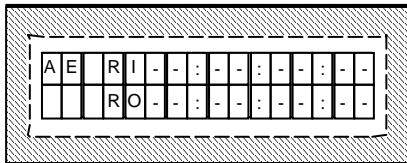
EDIT 方法

2 台の VTR を使って編集を行うときに使用します。

VTR 同士の編集

メニューにより RS-422 ポートの REC/PLAY の設定を行います。AE ボタンを押下し点灯させ編集モードに入ります。ポートセレクトボタンで REC を選択します。

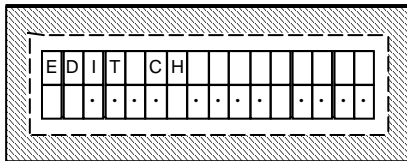
液晶表示に



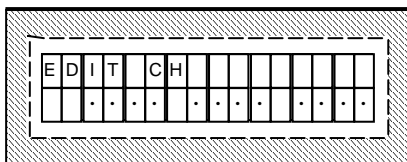
と表示されます。

IN/OUT ボタンで IN 点と OUT 点を決めます。

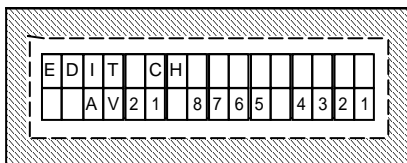
SFT+ ↓キーで EDIT CH が表示されます。



SFT+ ←→キーで液晶表示機の矢印が出て移動します。



SFT+ +キーでアッセンブルモード編集するかインサートモード編集で編集するかを選択します。



A・・・アッセンブル編集

V・・・VIDEO (インサート編集)

2・・・AUDIO CH2

1・・・AUDIO CH1

8・・・DA8CH

7・・・DA7CH

6・・・DA6CH

5・・・DA5CH

4・・・DA4CH

3・・・DA3CH

2・・・DA2CH

1・・・DA1CH

同様に、ポートセレクトボタンでPLAYを選択してIN/OUTボタンでIN点とOUT点を決めます。RECボタンを押下するとプレビューします。SFT+ RECボタンでEDITを開始します。SFT+ PLAYボタンでレビューします。EDITモードを抜ける場合はもう一度AEボタンを押下してボタンを消灯させて下さい。

※VTRで編集を行う場合メニューRS-422 PORTの”EdtPrsStsLen”を2にしてください。

※VTR側のオートエディット機能は使用していません。

6. Disk Soft 使用時の機能と操作方法(拡張機能)

6.1 CoupLing 機能

Disk Recorder を使用し、REC ポートで収録しながら PLAY ポートで再生させることが可能です。また、収録映像に対して、CUE 点を登録し、PLAY ポートから、登録した CUE 点を呼び出し、再生/スロー再生させることが出来ます。収録中に再生映像に対しても、CUE 点を登録し、PLAY ポートから、登録した CUE 点を呼び出し、再生/スロー再生させることが出来ます。1台の MAV に対して、2台の MDC-50Ab 接続が可能です。その場合は、メニュー設定により、MDC-50Ab ID 設定を2台別々の ID 設定にして使用してください。メインメニュー LAN/LINK の "\$UnitID" で設定できます。

※同じ ID で収録すると、ファイル名が同じものになり、REC されない場合があります。

※収録直後の映像が再生制御可能になるまでの期間が Disk Recorder によって異なるため、MDC-50Ab からの、収録直後の映像に対する CUE UP 操作に Delay をかける必要があります。メインメニューの"RS-422"内"RecTcSchDly"項目を、ご使用の Disk Recorder に合わせて設定して下さい。(* 設定値は各デバイスメーカーにお問い合わせ下さい)

6.1.1 CoupLing 機能の設定

- ①メインメニューの"CONSOLE"を ENT し ↑ / ↓ (項目移動) で、"PoartCtMode"を選択し、+ / - (設定移動) スイッチで "Coupling" を選択し ENT ボタンを押下します。
- ②次に、メインメニューの"CONSOLE"の" P1~4EvCueArea"と"P1~4FListArea"を選択し、+ / - (設定移動) ボタンで ABCD の中からエリアを選択し ENT ボタンを押下します。※この設定は、CUE を登録するエリアの設定になります。ディスクの場合は、REC のタイムコードに対しての CUE 点と PLAY のタイムコードに対しての CUE 点をそれぞれ呼び出せるようにするために、エリアを REC ポートと PLAY ポート同じにする必要があります。このため、1ポートあたり700個のCUE点が登録できますが、この設定の場合2ポートで700個のCUE登録数になります。

設定例

例) ポート1と2をディスクと接続し、ポート3と4はVTRを接続する場合" P1EvCueArea"から" P4EvCueArea"の設定は下記の様になります。

P1EvCueArea→A	P1 FListArea→A
P2EvCueArea→A	P2 FListArea→A
P3EvCueArea→C	P3 FListArea→C
P4EvCueArea→D	P4 FListArea→D

③次に、メインメニューの”RS-422”を ENT し↑/↓(項目移動)ボタンで、”PrtclTyp”を選択し、+/- (設定移動)ボタンでプロトコルを選択し ENT ボタンを押下します。

④次に、メインメニューの”EXTENSION-1”を ENT し↑/↓(項目移動)ボタンで、”P1-RecCplg”を選択し、←/→(カーソル移動)キーと+/- (設定移動)ボタンを使って、REC コマンドをどのポートから出すかを設定します。**※この設定は、ポート選択ボタンを PLAY 側のポートを選択していても REC ボタンを押下すると REC ポートから REC コマンドを出すようにする設定です。**

設定例

例)ポート1と2をディスクと接続し、(ポート1REC、ポート2PLAY)ポート3と4はVTRを接続する場合”P1-RecCplg”から”P4-RecCplg”の設定は

P1-RecCplg→0001

P2-RecCplg→0001

P3-RecCplg→0100

P4-RecCplg→1000

⑤次に、メインメニューの”EXTENSION-1”の”P1-PlayCplg”を選択し、←/→(カーソル移動)ボタンと+/- (設定移動)ボタンを使って、PLAYコマンドをどのポートから出すかを設定します。

※この設定は、ポート選択ボタンを REC 側のポートを選択していても PLAY ボタンなどを押下すると PLAY ポートから PLAY などのコマンドを出すようにする設定です。

設定例

例)ポート1と2をディスクと接続し、(ポート1REC、ポート2PLAY)ポート3と4はVTRを接続する場合”P1-PlayCplg”から”P4-PlayCplg”の設定は

P1-PlayCplg→0010

P2-PlayCplg→0010

P3-PlayCplg→0100

P4-PlayCplg→1000

以上の設定で収録しながら再生が出来る設定が出来ます。

※SONY DSR-DR1000を接続する場合は、DSR-DR1000の設定を”Interface””Remot I/F”を”9P Dual”にしてください。

RS-422 で PLAY 側と REC 側が制御可能になります。

6.1.2 その他の設定

通常VTRをコントロールする場合の出荷時の設定です。

”PoartCtMode” → **Normal**

P1EvCueArea → **A**

P2EvCueArea → **B**

P3EvCueArea → **C**

P4EvCueArea → **D**

P1 FListArea → **A**

P2 FListArea → **B**

P3 FListArea → **C**

P4 FListArea → **D**

P1-RecCplg → **0001**

P2-RecCplg → **0010**

P3-RecCplg → **0100**

P4-RecCplg → **1000**

P1-PlayCplg → **0001**

P2-PlayCplg → **0010**

P3-PlayCplg → **0100**

P4-PlayCplg → **1000**

6.2 Disk Recoder 使用時のファイル管理

DiskRecoder を使用する時は、MDC-50Ab からファイルを作成する事が可能です。ファイル名は、"M0110000"のようなファイル名が DiskRecoder に作成されず。

REC、STOPを繰り返すたびに、ファイルを作成しますので、ファイル名は" M0110001""M0110002"のように下四桁が変わっていきます。0001~9999までファイル番号が作成されます。9999を過ぎると、ファイル名は、0000からまた作成されます。ファイル名の意味合いを下記に説明します。

M 0 1 1 0 0 0 0		
MDC ID番号	MDC ポート番号	ファイル番号 0000~9999

ファイル名はメニューによりファイル番号を指定して作成することが可能です。設定は、メインメニューの"CONSOLE"を選択し、"P1~4RecFno"を選択して変更します。

ファイル名の確認

SFT を押下すると選択されているポートのファイル名が表示されます。

DiskRecoder にあるファイルの読み込み

MDC-50Ab から DiskRecoder にあるファイルを読み込むことが出来ます。SFT+TML ボタンを押下しと FILE LIST MODE になります。液晶表示に、"FILE LIST 0"と表示されます。SFT+ENT ボタンを押下すと、DiskRecoder からファイルを読み込みます。液晶表示に"FLIST 001 ファイル名"と表示されます。SFT+ (テンキーSFT+7/4) でファイルを選択し、SEARCH ボタンを押下すると選択したファイルが PLAY ポートに読み込まれます。

MDC-50Ab へのファイルの読み込みはファイル 200 個までです。DiskRecoder にファイルが 200 個以上ある場合は、それ以上のファイルは読み込まれません。

DiskRecoder にあるファイルの削除

MDC-50Ab から Disk Recorder にあるファイルの削除が出来ます。FILE LIST MODE 時、削除したいファイルを選択し、PLAYポートに読み込み、SFT+CLR ボタンを長押しすると、ファイルの削除が出来ます。

ファイルの削除を行うにはメニューの設定が必要です。メインメニューの"CONSOLE"内、"FdelOpreEna"項目を"Enable"に設定して下さい。

7. GPI機能と操作方法

7.1 機能説明

本機は、GPI の機能を設定する事が可能です。GPI 端子は入力 8 Bit と出力 8 Bit あり入力に対しては PLAY / STOP / REC / FF / FR / CUE / SEARCH / STANDBY 等を割り付ける事が可能です。又 OA INHI 機能も装備していますので、OA が来ている時、特定のスイッチの操作を効かなくする事も可能です。

7.2 ピンアサイン詳細

GIP IF (Dsub 25pin メス座)

1	NC	
2	NC	
3	OUT1	ポート2 "OutLw-Ptn"の設定による
4	OUT3	ポート4 "OutLw-Ptn"の設定による
5	OUT5	ポート2 "OutHi-Ptn"の設定による
6	OUT7	ポート4 "OutHi-Ptn"の設定による
7	GND	
8	GND	
9	IN1	ポート2 "InpLw-Ptn"の設定による
10	IN3	ポート4 "InpLw-Ptn"の設定による
11	IN5	ポート2 "InpHi-Ptn"の設定による
12	IN7	ポート4 "InpHi-Ptn"の設定による
13	NC	
14	NC	
15	OUT0	ポート1 "OutLw-Ptn"の設定による
16	OUT2	ポート3 "OutLw-Ptn"の設定による
17	OUT4	ポート1 "OutHi-Ptn"の設定による
18	OUT6	ポート3 "OutHi-Ptn"の設定による
19	GND	
20	GND	
21	IN0	ポート1 "InpLw-Ptn"の設定による
22	IN2	ポート3 "InpLw-Ptn"の設定による
23	IN4	ポート1 "InpHi-Ptn"の設定による
24	IN6	ポート3 "InpHi-Ptn"の設定による
25	NC	

7.3 設定方法詳細

入出力ピンの設定

本機の GPI 入出力は、それぞれ機能を設定する事が可能です。設定は上位4Bit と下位4 Bit の入出力 Pin の機能を割り当てる事により実現可能です。

入力ピン設定方法詳細

上位4Bit と下位4Bit の入力の設定は下記設定が可能です。

※メニューの”GPI”の”InpLw”と”InpHi”で設定可能です。出力は”OutLw””InpHi”で設定を行って下さい。

設定は下記に示す様に8パターン各々設定が可能です。

Disable

IN0～3の GPI 入力を禁止します。

OA-C

IN0～3がポート1～4に対して OA INHI 設定されます。

STOP-C

IN0～3がポート1～4に対して STOP 設定されます。

PLAY-C

IN0～3がポート1～4に対して PLAY 設定されます。

REC-C

IN0～3がポート1～4に対して REC 設定されます。

CUE-C

IN0～3がポート1～4に対して CUE 設定されます。

SEARCH-C

IN0～3がポート1～4に対して SEARCH 設定されます。

STNDBY-C

IN0～3がポート1～4に対して STNDBY 設定されます。

REMA1-C / REMB1-C

IN0～3の各 BIT に機能の割付が可能です。この時ポートは1に固定します。

REMA2-C / REMB2-C

IN0～3の各 BIT に機能の割付が可能です。この時ポートは2に固定します。

REMA3-C / REMB3-C

IN0～3の各 BIT に機能の割付が可能です。この時ポートは3に固定します。

REMA4-C / REMB4-C

IN0～3の各 BIT に機能の割付が可能です。この時ポートは4に固定します。

※REM A/REM B 機能の割付

前ページ REM1-4 の設定に対する各 Bit の割付を下記に示す。

<REM A>		<REM B>	
Bit1	STOP	Bit1	REC
Bit2	PLAY	Bit2	CUE
Bit3	FR	Bit3	SEARCH
Bit4	FF	Bit4	STNDBY ON

※同様に IN4-7 の設定も可能です。

※GPI の SEARCH 機能は、SEARCH するポートが選択され CUE モードになっているときに有効になり液晶表示部に選択されている CUE 番号が CUE UP されます。(ポート選択と CUE モードになっていないと GPI の SEARCH 機能は動作しません。)動作は、MDC-50Ab の SEARCH ボタンを押した動作と同じ動作を行います。

※GPI の CUE 機能は、CUE 登録するポートが選択されているときに有効になります。

(ポート選択されていないと GPI の CUE 機能は動作しません。)

動作は、MDC-50Ab の CUE ボタンを押した動作と同じ動作を行います。

OA INHI 機能

GPI に入力が入った時下記のスイッチが操作出来なくなります。

※OA INHI を使用する時は、メインメニュー Console の"OA-Inhi"を ON にしてください。

OA 中に効かないボタン一覧

•REC
•PLAY
•STOP
•STANDBY
•JOG ダイアル
•VAR
•JOG
•STL
•SEARCH
•AE/IN/OUT

※OA が来ているときに CUE の登録はできますが、CUE UP 制御はできません。TC 表示切替は可能です。

8. PAL 対応

H01 S0130-01 バージョンから PAL 信号に対応しました。

設定方法

- 1) メインメニューSYSTEM の "\$SysFrmTyp"を"PAL"にします。
- 2) メインメニューRS-422 の "FrameType"が"PAL"に固定されます。
- 3) メインメニューCONSOLE 2 の "StopSwDisp"を設定します。

エラー表示機能

REF 信号と MDC-50Ab の設定があっていない時に STOP ボタンを点滅させてエラー表示させることが可能です。(デフォルトは"Normal")

- "Normal":VTR の STOP 状態の表示
- "RefSts" :VTR の STOP 状態の表示 と 外部 REF 入力エラー時の
強制点滅表示

9. メニューの設定及び操作方法

9.1 メニューの操作方法

メニュースイッチを押すとメニューモードになります。再度押下するとメニューモードが解除されます。

※CUE MODEに入っているときはMENUボタンを押下してもメニューに入れません。ESCボタンでCUE MODEを抜けてからMENUボタンを押下して下さい。

メニューの操作はテンキー部の SFT ボタン+↑/↓(項目移動)←/→(カーソル移動)+/- (設定移動)キーを使用してメニューの移動と変更を行います。MENU ボタンを押下するとSHIFT ボタンが点灯しSHIFT 状態が保持されます。もう一度SHIFT ボタンを押下すると解除されます。次にSHIFT ボタンを押下すると、SHIFT 状態が保持されます。

メインメニュー

- >CONSOLE
- >RS-422 PORT
- >GPI
- >LAN/LINK
- >SYSTEM
- >EXTENSION-1(ディスクソフトのみ表示)

SFTボタン+↑/↓(項目移動)で項目を移動してENTボタンを押下します。メインメニューからサブメニューに移ります。(メニュー一覧参照)サブメニューに入りSFTボタン+↑/↓(項目移動)で項目を移動し、+/- (設定移動)ボタンで設定を移動します。ENTボタンを押して設定変更します。

9.2 メニューの保存と読み出し方法

9.2.1 メニューの保存

メニューモードに入り **SYSTEM** の”#CfgBnkSv”で現在設定しているメニューの保存が可能です。メニューの保存は8個登録できます。登録方法は、”#CfgBnkSv”内で—+ボタンにより **Bank1～8**”の何れか SAVE したい Bank を選び ENT ボタンを押します。現在のメニュー内容が指定されたバンクへ保存されます。

※都合上、セーブ後リスタートがかかります。

9.2.2 メニューの読み出し

メニューモードに入り **CONSOLE** の”#CfgBnkLd”で事前に保存したメニュー内容を読み出すことが可能です。読み出し方法は、”#CfgBnkLd”内で—+ボタンにより **Bank1～8**”の何れか LOAD したい Bank を選び ENT ボタンを押します。指定されたバンクからメニュー内容が読み出され現在の設定に反映されます。データの無い Bank を選ぶと LOAD 時に”NoData”と表示されます。

※都合上、ロード後リスタートがかかります。

9.3 メニュー一覧

先頭が"\$"となっている項目は、電源再投入の必要があります。

******は、デフォルト設定です。

項目メイン	サブ項目	設定
CONSOLE	SaveEve&Cue	NoSave 保存しない * Save 保存する 登録した CUE 点を保存する/しないの設定
CONSOLE	EraseEve&Cue	NoErase 削除しない * Port1 ポート 1 を削除する * Port2 ポート 2 を削除する * Port3 ポート 3 を削除する * Port4 ポート 4 を削除する * ALL すべてのポートを削除する 登録した CUE 点を削除する設定
CONSOLE	OA-Inhi	OFF OA 中でも操作(制御)が可能です * ON OA 中、操作(制御)を禁止します GPI を使って OA 中の操作を ON/OFF します
CONSOLE	Preroll	"00:00~09:29" (Def=00:00) CUE UP 時のプリロール時間を設定します ←/→でカーソルの移動 +/-で時間変更 00:00~59:29 まで
CONSOLE	CueModSel	Mode1 通常 CUE 登録 * Mode2 テンキーボタンに割り当て登録 起動時の CUE MODE 選択状態を設定します。
CONSOLE	CueInsMod	Apend CUE 登録したときに最後に登録されます * Ins 呼び出した CUE の前に登録されます * Ovw 呼び出した CUE に上書きされます CUE を呼び出した後の CUE 登録動作の選択をします
CONSOLE	AutoCueup	Disable 機能しない * Enable 機能する CUE を呼び出したときに SEARCH ボタンを押さなくても CUE UP するかを選択します
CONSOLE	CueAutoInc	* Disable 上書き登録 Inc 上書き登録後、次に進みます * Search 次の空きを探して登録します CUE MODE 2 選択時に、CUE 登録割り当ての方法を設定します
CONSOLE	AfterCueup	Disable StopComdSel で設定した状態になります * Shtl SHTL 状態になります * Jog JOG 状態になります * Var VAR 状態になります CUE UP 後の状態設定
CONSOLE	SchEnaMod	Normal Rec 中は CUE UP 禁止 * Rec Rec 中でも強制 Cueup 許可 Rec 中に CUE UP させるかの設定
CONSOLE	ParaSchMod	Tc マスターPort の Tc 値 で 一斉 Cueup * CueNo マスターPort の Cue 番号で (各 Port の Bank 別の同 Cue 番号 Tc 値で) 一斉 Cueup ParaSel モード使用時の CUE UP 方法の設定
CONSOLE	CtlDspMod	24h 24H表示します * 12h ±12H表示します CTL カウントを 24 時間表示にするか 12 時間表示にするかを選択します
CONSOLE	CtlRstsetMod	CmdSend CTL RESET コマンドを送信し、デバイスの CTL 表示と MDC の表示をリセットします * Emu MDC の表示のみを0リセットします

項目メイン	サブ項目	設定
CONSOLE	CtlPresetTc	00:00:00:00~23:59:59:29(Def=00:00:00:00) CTL Reset 時の PresetTc. <ul style="list-style-type: none"> • 但し "CtlResetMod" の設定に依存. • "CmdSend": コマンド送信でプリセット. • "Emu": MDC50Ab 内部計算で見かけ上のプリセット
CONSOLE	LtcgPreset	00:00:00:00~23:59:59:29 (Def=00:00:00:00) TC + RESET 押下時に送信される LTC Gen 値 本値の送信が機器に反映されるかは、機器側の LTC ジェネレータモード に依存します
CONSOLE	SelSwMod	TcTypeSel 通常 TC 切替えます *PortSel 通常ポート切替えます 2-2 項 LED 表示切替スイッチ / 制御ポート切替スイッチの切替を通常 LED 表示切替えるか制御ポートを通常切替えるかを選択します
CONSOLE	StbySwMod	ON OFF するときには SHIFT+ST-BY スイッチで ST-BY OFF になります *ON/OFF ON/OFF が ST-BY スイッチでトグル動作になります ST-BY スイッチの動作を選択します
CONSOLE	StopSwDisp	Normal VTR の STOP 状態の表示 *RefSts VTR の STOP 状態の表示 と 外部 REF 入力エラー時の強制点滅表示
CONSOLE	Lf/RtCupEna	*Disable 機能しない Enable 機能する テンキー部の左右矢印キーで CUE UP する設定です
CONSOLE	PushDis	Normal すべて機能します *PushDis JOG ダイアルのプッシュを無効にする JOG ダイアルのプッシュで JOG/SHTL 及び JOG/SHTL ボタンの切替の ON/OFF の設定です(MDC-50Ab は、プッシュ操作できません)
CONSOLE	SpdChgModPt1	Normal 状態が反映されます *Model 状態が解除されます ポート 1 の VTR 等を単体で操作したとき MDC-50Ab の SHTL/JOG/VAR 選択状態設定します
CONSOLE	SpdChgModPt2	Normal 状態が反映されます *Model 状態が解除されます ポート 2 の VTR 等を単体で操作したとき MDC-50Ab の SHTL/JOG/VAR 選択状態設定します
CONSOLE	SpdChgModPt3	Normal 状態が反映されます *Model 状態が解除されます ポート 3 の VTR 等を単体で操作したとき MDC-50Ab の SHTL/JOG/VAR 選択状態設定します
CONSOLE	SpdChgModPt4	Normal 状態が反映されます *Model 状態が解除されます ポート 4 の VTR 等を単体で操作したとき MDC-50Ab の SHTL/JOG/VAR 選択状態設定します
CONSOLE	RecStopMod	Normal Stop ボタンで停止 *+Shift Shift+ Stop ボタンで停止 Rec の停止操作方法を設定します
CONSOLE	PortCtlMode	Normal VTR の制御を行います *ParaSel VTR ソフト使用時の SYNC REC/PLAY/CUE UP を行います *Coupling ディスクレコーダーの撮って出しを行います ※Coupling はディスクソフト使用時のみ設定できます
CONSOLE	P1EveCueArea	AREA-A (CUE エリア 700 個) *AREA-B (CUE エリア 700 個) *AREA-C (CUE エリア 700 個) *AREA-D (CUE エリア 700 個) ポート 1 の CUE データの保管エリアを設定します(CUE MODE1)
CONSOLE	P2EveCueArea	*AREA-A (CUE エリア 700 個) AREA-B (CUE エリア 700 個) *AREA-C (CUE エリア 700 個) *AREA-D (CUE エリア 700 個) ポート 2 の CUE データの保管エリアを設定します(CUE MODE1)

項目メイン	サブ項目	設定
CONSOLE	P3EveCueArea	<p>*AREA-A (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-B (CUE エリア 700 個)</p> <p>AREA-C (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-D (CUE エリア 700 個)</p> <p>ポート 3 の CUE データの保管エリアを設定します(MODE1)</p>
CONSOLE	P4EveCueArea	<p>*AREA-A (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-B (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-C (CUE エリア 700 個)</p> <p>AREA-D (CUE エリア 700 個)</p> <p>ポート 4 の CUE データの保管エリアを設定します(CUE MODE1)</p>
CONSOLE	P1FListArea	<p>AREA-A (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-B (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-C (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-D (CUE エリア 700 個)</p> <p>ポート 1 の File List の保管エリアを設定します (TML MODE)</p>
CONSOLE	P2FListArea	<p>*AREA-A (CUE エリア 700 個)</p> <p>AREA-B (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-C (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-D (CUE エリア 700 個)</p> <p>ポート 2 の File List の保管エリアを設定します (TML MODE)</p>
CONSOLE	P3FListArea	<p>*AREA-A (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-B (CUE エリア 700 個)</p> <p>AREA-C (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-D (CUE エリア 700 個)</p> <p>ポート 3 の File List の保管エリアを設定します (TML MODE)</p>
CONSOLE	P4FListArea	<p>*AREA-A (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-B (CUE エリア 700 個)</p> <p>*AREA-C (CUE エリア 700 個)</p> <p>AREA-D (CUE エリア 700 個)</p> <p>ポート 4 の File List の保管エリアを設定します (TML MODE)</p>
CONSOLE	AE PreRolSec	<p>"3~60 sec" (Def=5) 簡易編集機能での プリロール指定</p>
CONSOLE	AE PstRolSec	<p>"0~60 sec" (Def=5) 簡易編集機能での ポストロール指定</p>
CONSOLE	AE Rec Port	<p>Port1</p> <p>* Port2</p> <p>* Port3</p> <p>* Port4</p> <p>簡易編集機能での Rec ポート選択</p>
CONSOLE	AE Play Port	<p>* Disable</p> <p>* Port1</p> <p>Port2</p> <p>* Port3</p> <p>* Port4</p> <p>簡易編集機能での Play ポート選択</p>
CONSOLE	AE InTcSetMd	<p>Normal EditIn 点は,IN ボタン操作でのみ設定</p> <p>* Mode1 EDIT 実行後,その時の EditOut 点を,自動的に次の EditIn 点にする 手動で EditOut(STOP や PLAY ボタン)させた場合は,操作した時の TC を,次の EditIn 点に反映します OUT ボタンで設定した EditOut 点まで実行した場合は,その Out 点+1 を,次の EditIn 点に反映します</p>
CONSOLE	P1RecFno	<p>"0000~9999"(Def=0000) 収録 File 番号 設定 ※ディスクソフト使用時のみ</p>
CONSOLE	P2RecFno	<p>"0000~9999"(Def=0000) 収録 File 番号 設定 ※ディスクソフト使用時のみ</p>

項目メイン	サブ項目	設定
CONSOLE	P3RecFno	"0000~9999"(Def=0000) 収録 File 番号 設定 ※ディスクソフト使用時のみ
CONSOLE	P4RecFno	"0000~9999"(Def=0000) 収録 File 番号 設定 ※ディスクソフト使用時のみ
CONSOLE	FdelOprEna	Disable ファイル削除を許可しない * Enable ファイル削除を許可する 接続している DiskRecorder 内のファイル削除操作を許可するか選択 ※ディスクソフト使用時のみ
CONSOLE	\$PnlMode	Normal MDC-50Ab 標準機能 * Mode1 パネルモード 1(操作パネル全部を他局に解放) * Mode2 パネルモード 2(TC7SEG 表示と Dial と J/S/V のみ自身で制御) 外部(PC)から制御を行うときに使用します ※通常は設定を変えないでください
CONSOLE	InitConfig	NoInit デフォルトしません * Port1 ポート1をデフォルトします * Port2 ポート2をデフォルトします * Port3 ポート3をデフォルトします * Port4 ポート4をデフォルトします * System システムをデフォルトします * ALL すべてデフォルトします ポート 1,2,3,4 は RS-422 メニューの Config をデフォルトにします。System は RS-422 以外の Config をデフォルトにします
CONSOLE	#CfgBnkLd	Non バンク呼び出しをしません * Bank1 バンク 1 を呼び出します * Bank2 バンク 2 を呼び出します * Bank3 バンク 3 を呼び出します * Bank4 バンク 4 を呼び出します * Bank5 バンク 5 を呼び出します * Bank6 バンク 6 を呼び出します * Bank7 バンク 7 を呼び出します * Bank8 バンク 8 を呼び出します メニュー設定を登録したバンクを呼び出します

項目メイン	サブ項目	設定
RS-422 PORT	PortName Pt1~Pt4	8 文字 (Def="VTR-1~4") ポート名称
RS-422 PORT	PrtclTyp Pt1~Pt4	* THR スルー通信 9PIN VTR プロトコル * ODETICS ODETICS プロトコル * MAV SONY ディスクプロトコル(MAV555/777) プロトコル選択” ODETICS””MAV”ディスクソフト使用時のみ設定できます。” MAV ”は MAV555/777 を制御可能にします。スルー通信は、PC と接続してのシステムの時などで、特殊なプロトコル通信を行う場合に設定します。”THR”にしたポートは、その LCD 表示は”OFFLINE”表示になり、パネル上での操作も不可能になります
RS-422 PORT	FrameType Pt1~Pt4	NTSC-DF * NTSC-NDF フレームタイプの設定 ”\$SysFrmTyp” が”NTSC”の場合、”FrameType”は ”NTSC-DF” or ”NTSC-NDF” 選択.
RS-422 PORT	DF-Mode Pt1~Pt4	Device 機器からの TC アンサーで DF/NDF を動的に処理 * Fix ”FrameType” の設定で固定扱い NTSC での DF/NDF 機器追従指定 一部の機器で TC アンサーの DF-bit が立たない場合のみ ”DF-Mode”=”Fix”とし”FrameType” を希望の選択にする

項目メイン	サブ項目	設定
RS-422 PORT	StbyOffTimer Pt1～Pt4	DISABLE 機能しない(VTR 設定で動作) * 30sec 30 秒 * 60sec 60 秒 * 03min 3 分 * 05min 5 分 * 08min 8 分 * 15min 15 分 * 30min 30 分 スタンバイ OFF タイマー設定 (STOP 操作時送信する) (ポート 1～4)
RS-422 PORT	StbyOnMod Pt1～Pt4	* Normal StandbyOn コマンドのみ送信 OffTmrReset Standby Off Timer の Reset コマンド も送信 (SONY 機器向け) STBY ボタン (ON 時) の時指定
RS-422 PORT	StopCmdSel Pt1～Pt4	STOP ストップ状態 * Var-Still バリヤブル状態 * Jog-Still ジョグ状態 * Shtl-Still シャトル状態 STOP ボタンを押したときの状態設定です
RS-422 PORT	StepCmdTyp Pt1～Pt4	Normal * Doremi Step コマンドの選択現在の所、ドレミのみ対応
RS-422 PORT	ShtlMaxType Pt1～Pt4	* ×4/×8/×16/×32/×50/×60/×100/×200/×MAX FF/FR SHTL 最大スピードの設定です。
RS-422 PORT	VarMaxType Pt1～Pt4	* ×4/×8/×16/×32/×50/×60/×100/×200/×MAX FF/FR DialVar 最大スピードの設定です。
RS-422 PORT	CueupCmdTyp Pt1～Pt4	Normal * Doremi Cueup コマンドの選択ドレミ使用時のみ設定を”Doremi”にしてください
RS-422 PORT	CueupTcType Pt1～Pt4	TC パネルの TC 選択ボタン=TC 時のみ CUE 等の登録が 可となる * CTL パネルの TC 選択ボタン=CTL 時のみ CUE 等の登録が 可となる * Auto パネルの TC 選択ボタン=TC/CT 時どちらも CUE 等の登録が 可となる * Disable パネルの TC 選択ボタン=TC/CTL 時どちらも CUE 等の登録が可となる CUE 等の登録 TC 種別の指定 (Cueup コマンド送信時の “TimerModeSelect” コマンド (VTR コマンド) の送信指定)
RS-422 PORT	RecTcSchDly Pt1～Pt4	“0～150”(Def=0) 収録直後の映像に対する CUE UP 操作に DELAY をかけます
RS-422 PORT	ReqStsLen Pt1～Pt4	“0～15” (Def=6) ステータスリクエストの時間を設定します
RS-422 PORT	ReqTcMode Pt1～Pt4	AUTO VTR 設定に依存します * LTC LTC を表示します * VITC VITC を表示します * FTC FTC を表示します LED 表示切替スイッチ部の TC を選んだときの表示するタイムコードを選択します
RS-422 PORT	ReqTcMode2 Pt1～Pt4	Non 2 つ目の TC/UB センスは行わない * AUTO VTR 設定に依存します * LTC LTC のみセンスします * VITC VITC のみセンスします * CTL CTL のみセンスします * FTC FTC のみセンスします * LTC-UB LTC-UB のみセンスします * VITC-UB VITC-UB のみセンスします 2 つ目の TC/UB センスが必要な時に設定 ・PC と接続したシステム等において、状況に応じて選択 ・通常はデフォルトのままでご使用下さい
RS-422 PORT	ReqTCTmg1 Pt1～Pt4	“0～16”(Def=0) 1 つ目の TC センスタイミングを指定 ・通常はデフォルトのままでご使用下さい

項目メイン	サブ項目	設定
RS-422 PORT	ReqTCMtg1 Pt1~Pt4	“0~16”(Def=0) 1つ目の TC センスタイミングを指定 ・通常はデフォルトのままをご使用下さい
RS-422 PORT	ReqTCMtg2 Pt1~Pt4	“0~16”(Def=0) 2つ目の TC センスタイミングを指定 ・通常はデフォルトのままをご使用下さい
RS-422 PORT	DevTypMod Pt1~Pt4	<input type="checkbox"/> Normal 周期的にセンサします * Fix センサしません * Once 通信開始時のみセンサします 機器に対するデバイスタイプリクエスト送信動作の選択を行います
RS-422 PORT	UbitSnsEna Pt1~Pt4	* Disable 機能させない <input type="checkbox"/> Enable 機能させる TC 切替の U-Bit センサを許可するかしないかを選択します
RS-422 PORT	SpeedSns Pt1~Pt4	<input type="checkbox"/> Disable * VtrSns PC と接続したシステムにおいて、状況に応じて設定 ・通常はデフォルトのままをご使用下さい
RS-422 PORT	DevTypMod Pt1~Pt4	<input type="checkbox"/> Normal 周期的にセンサします * Fix センサしません * Once 通信開始時のみセンサします 機器に対するデバイスタイプリクエスト送信動作の選択
RS-422 PORT	PbEeMod Pt1~Pt4	* Disable 何もしない <input type="checkbox"/> PlayPB PLAY 系コマンド送信の際、FullEE-OFF コマンドも送信します * PlayPB2 同上、ただし STOP コマンドの際は 送信しない PlayPB または PlayPB2 にしておく、PLAY 系コマンド 送信時に明示的に EE から PB 状態に切替えます
RS-422 PORT	PbEeDly Pt1~Pt4	“0~150”(Def=0) PLAY 系コマンド送信後の、FullEE-OFF コマンド送信を何フレーム遅らすかの設定
RS-422 PORT	FnamSnsTyp Pt1~Pt4	<input type="checkbox"/> Normal * Doremi * AMP Disk 機器向けの ファイルセンサコマンド の選択
RS-422 PORT	SdskRecDur Pt1~Pt4	“00:00:00:00~23:59:59:29” (Def=01:00:00:00) Disk 機器向けの 記録ファイルサイズ の指定 ("PrctlTyp"="SonyDisk"で MAV の場合のみ 有効)
RS-422 PORT	SdskLoopRec Pt1~Pt4	<input type="checkbox"/> ON * OFF Disk 機器などの LOOP 記録設定 ("PrctlTyp"="SonyDisk"で MAV の場合のみ 有効)
RS-422 PORT	SdskMcnTyp	<input type="checkbox"/> MAV MAV 使用時の設定 * DR1000 下位互換 DSR-DR1000 用プロトコル設定 SonyDisk プロトコルの選択を行います
RS-422 PORT	RecEnable Pt1~Pt4	* Disable REC を機能させない <input type="checkbox"/> Enable REC を機能させる REC 動作を禁止するか選択します
RS-422 PORT	LtcGenTcMod	<input type="checkbox"/> Disable 何も送信しない * Device 機器側のメニュー設定に従う * LtcReGen 再生 LTC を元に REGEN するモードにする 機器側の LtcGen の Ltc 生成モード
RS-422 PORT	LtcGenUbMod	<input type="checkbox"/> Disable 何も送信しない * Device 機器側のメニュー設定に従う * LtcReGen 再生 LTC を元に REGEN するモードにする 再生 LTC を元に Ltc-Ubit を REGEN するモードにする

項目メイン	サブ項目	設定
RS-422 PORT	RecLtcSel	Disable 何も送信しない * Device 機器側のメニュー設定に従う * IntrLtc 機器側の内部 LTC を記録する ※ 上記3項目は,機器によって動作が異なるか受け付けられない場合がある。ほとんどの場合, 全て"Disable" にして機器側で設定してもらうとするか "LtcGenTcMod=LtcReGen", "LtcGenUbMod=LtcReGen", "RecLtcSel=IntrLtc" と設定して,機器側の再生 LTC を REGEN した LTC を記録するモードにする
RS-422 PORT	EdtPrsStsLen Pt1~Pt4	"0~7" (Def=0) "EDIT PRESET SENSE" コマンドのセンス長さ指定 ・機器側の EDITトラック設定状態のセンス長の指定 ・ASM,V,A1,A2,DA1~8 まで(一般的な VTR) なら 設定値は2 ・現在の所, MAV の場合は 0(センス停止)とする。(MAV 依存)
RS-422 PORT	EditInOfst Pt1~Pt4	"0~30 frame" (Def=5) EDIT-IN コマンドの送信タイミング指定 ・ほとんどの VTR は 5~10
RS-422 PORT	EditOutOfst Pt1~Pt4	"0~30 frame" (Def=5) EDIT-OUT コマンドの送信タイミング指定 ・ほとんどの VTR は 5~10 で "EditInOfst" と同値の場合が多い
RS-422 PORT	EdtOffCmdSel Pt1~Pt4	Edit-Off * Play EDIT-OUT 時の使用コマンド選択 (機器によっては,EDIT-OUT 出来るコマンドに制限があるのでその対策用)
RS-422 PORT	StopTmg Pt1~Pt4	"0~99 frame" (Def=5) Dur 付きで Play する時などに使用される Stop コマンド送信タイミング パラメータ
RS-422 PORT	StillTmg Pt1~Pt4	"0~99 frame" (Def=5) Dur 付きで Play する時などに使用される "Still"コマンド送信タイミング パラメータ ここで言う"Still"コマンドとは, Jog/Shtl/Var のスピード値を0にしたコマンド
RS-422 PORT	SycStartDly Pt1~Pt4	"0~999 frame" (Def=5) 簡易編集機能での 調相制御パラメータ ・PLAY 送信のタイミングを調整するものであり,最適値にすると, 開始後 速やかに調相完了となります ・デフォルト値を中心に,調相開始後 速やかに調相完了となる値に 調整する。(約 3~10の間)
RS-422 PORT	SycGradeFrm Pt1~Pt4	"0~99 frame" (Def=0) 簡易編集機能での 調相制御パラメータ ・調相完了判定用の調相精度の設定 ・特に旧式の機器でない限り0を指定
RS-422 PORT	PraRecDly Pt1~Pt4	"0~999 frame" (Def=0) Para rec 時の Rec 送信に Delay をかけます 通常はデフォルトでご使用下さい
RS-422 PORT	SycPrm-1 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm-2 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm-3 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm-4 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm-8 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm+1 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm+2 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm+3 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SycPrm+4 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ

項目メイン	サブ項目	設定
S-422 PORT	SycPrm+8 Pt1~Pt4	"SPED=00~FF WAIT=00~FF" 簡易編集機能での 調相制御パラメータ
RS-422 PORT	SioBaudRate Pt1~Pt4	"4800~115200" (Def=38400) SIO のボーレート選択
RS-422 PORT	SioDataBit Pt1~Pt4	7bit * 8bit SIO のデータビット選択
RS-422 PORT	SioParity Pt1~Pt4	* pn p * pe SIO のパリティビット選択
RS-422 PORT	SioStopBit Pt1~Pt4	1bit * 2bit SIO のストップビット選択
RS-422 PORT	SioPinAsn Pt1~Pt4	RemOut * RemInp SIO の Tx/Rx ピンアサイン
RS-422 PORT	SioFrmTout Pt1~Pt4	"0~999" (Def=5) SIO のフレーム通信タイムアウト 通常はデフォルトのまま
RS-422 PORT	SioChrTout Pt1~Pt4	"0~999" (Def=15) SIO の受信キャラクター間タイムアウト 通常はデフォルトのまま
RS-422 PORT	OptCmdBmp Pt1~Pt4	"00 ~ FF" (Def=01) 通信コマンドのオプション指定
RS-422 PORT	SioSysPrmA Pt1~Pt4	* Thr Mcr PC と接続したシステムにおいて、状況に応じて設定 通常はデフォルトのままご使用下さい
RS-422 PORT	SioSysPrmB Pt1~Pt4	"0~4" (Def=0) メーカー内部パラメータ

項目メイン	サブ項目	設定
GPI	InpMode	Disable GPI 入力禁止 * Thr PC など上位に対してスルーで通知 * CfgAsn 下記コンフィグ設定("InpLw/InpHi")に従い内部で処理 (PLAY-C や STOP-C 他) * Opt 特注仕様用設定(通常は使用しません) GPI 入力の基本動作設定
GPI	InpLw	Disable IN0-3 の GPI 入力を禁止します * OA-C IN0-3 が All ポート OA INHI 設定されます * STOP-C IN0-3 が All ポート STOP 設定されます * PLAY-C IN0-3 が All ポート PLAY 設定されます * REC-C IN0-3 が All ポート REC 設定されます * CUE-C IN0-3 が All ポート CUE 設定されます * SEARCH-C IN0-3 が All ポート SEARCH 設定されます * STNDBY-C IN0-3 が All ポート STNDBY 設定されます * REMA1-C IN0-3 がポート1に割り当て設定されます * REMA2-C IN0-3 がポート2に割り当て設定されます * REMA3-C IN0-3 がポート3に割り当て設定されます * REMA4-C IN0-3 がポート4に割り当て設定されます * REMB1-C IN0-3 がポート1に割り当て設定されます * REMB2-C IN0-3 がポート2に割り当て設定されます * REMB3-C IN0-3 がポート3に割り当て設定されます * REMB4-C IN0-3 がポート4に割り当て設定されます GPI 入力 下位 4bit の用途 指定 "InpMode=CfgAsn"の時に本設定で動作する "REMI-4-C"は、4bit を(1 つのポート制御用に) STOP/PLAY/FR/FF に割り当てたもの

項目メイン	サブ項目	設定
GPI	InpHi	<p>Disable IN4-7 の GPI 入力を禁止します</p> <p>*OA-C IN4-7 が All ポート OA INHI 設定されます</p> <p>*STOP-C IN4-7 が All ポート STOP 設定されます</p> <p>*PLAY-C IN4-7 が All ポート PLAY 設定されます</p> <p>*REC-C IN4-7 が All ポート REC 設定されます</p> <p>*CUE- C IN0-3 が All ポート CUE 設定されます</p> <p>*SEARCH-C IN0-3 が All ポート SEARCH 設定されます</p> <p>*STNDBY-C IN0-3 が All ポート STNDBY 設定されます</p> <p>*REMA1-C IN0-3 がポート1に割り当て設定されます</p> <p>*REMA2-C IN0-3 がポート2に割り当て設定されます</p> <p>*REMA3-C IN0-3 がポート3に割り当て設定されます</p> <p>*REMA4-C IN0-3 がポート4に割り当て設定されます</p> <p>*REMB1-C IN0-3 がポート1に割り当て設定されます</p> <p>*REMB2-C IN0-3 がポート2に割り当て設定されます</p> <p>*REMB3-C IN0-3 がポート3に割り当て設定されます</p> <p>*REMB4-C IN0-3 がポート4に割り当て設定されます</p> <p>GPI 入力 上位 4bit の用途 指定</p> <p>"InpMode=CfgAsn"の時に本設定で動作する</p> <p>"REM1-4-C"は、4bit を(1 つのポート制御用に)</p> <p>STOP/PLAY/FR/FF に割り当てたもの</p>
GPI	OutMod	<p>Disable GPI 入力禁止</p> <p>*Thr PC など上位に対してスルーで通知</p> <p>*CfgAsn 下記コンフィグ設定("InpLw/InpHi")に従い内部で処理 (PLAY-C や STOP-C 他)</p> <p>*Opt 特注仕様用設定 (通常は使用しません)</p> <p>*Test IN→OUT スルーテストモード</p> <p>GPI 出力の基本動作設定</p>
GPI	OutLw	<p>Disable</p> <p>*OA-S</p> <p>*STOP-S</p> <p>*PLAY-S</p> <p>*REC-S</p> <p>*SEARCH- S</p> <p>*STNDBY- S</p> <p>*REMA1- S</p> <p>*REMA2- S</p> <p>*REMA3- S</p> <p>*REMA4- S</p> <p>*REMB1- S</p> <p>*REMB2- S</p> <p>*REMB3- S</p> <p>*REMB4- S</p> <p>*LevelL</p> <p>*LevelH</p> <p>*EventL</p> <p>*EventH</p> <p>GPI 出力下位 4bit の用途 指定</p> <p>"OutMod=CfgAsn"の時に本設定で動作する</p> <p>"LevelL,LevelH,EventL,EventH"は今後のイベント GPI 制御用</p>

項目メイン	サブ項目	設定
GPI	OutHi	<p>Disable</p> <ul style="list-style-type: none"> * OA-S * STOP-S * PLAY-S * REC-S * SEARCH- S * STNDBY- S * REMA1- S * REMA2- S * REMA3- S * REMA4- S * REMB1- S * REMB2- S * REMB3- S * REMB4- S * LevelL * LevelH * EventL * EventH <p>GPI 出力上位 4bit の用途 指定 "OutMod=CfgAsn"の時に本設定で動作する "LevelL,LevelH,EventL,EventH"は今後のイベント GPI 制御用</p>

項目メイン	サブ項目	設定
LAN/LINK	IpAdrs	<p>"192:168:001:240" (=Def)</p> <p>PC 等 と LAN で接続した場合に 必要に応じて設定</p>
LAN/LINK	IpMask	<p>"255:255:255:000" (=Def)</p> <p>PC 等 と LAN で接続した場合に 必要に応じて設定</p>
LAN/LINK	\$UnitID	<p>"1ID 2ID 3ID 4ID 5ID 6ID 7ID 8ID" (Def=1ID)</p> <p>MDC50Ab 自局の ID (デフォルトのままで使用してください)</p>
LAN/LINK	LanRspMod	<p>Disable 通知しない</p> <ul style="list-style-type: none"> * RtStsEna 周期ステータスのみ通知 (TimeCode など) * OpStsEna 操作イベントのみ通知 (キー操作など) * EvOpEna Cue 関係操作イベントのみ通知 * AllEna 全て通知 <p>PC と LAN で接続した場合の PC へのステータス通知モード PC と接続する場合のみ必要に応じて設定</p>
LAN/LINK	LanRspUnt	<p>"0~64" (Def=8)</p> <p>PC と LAN で接続した場合の PC 側の UnitID. (ステータスの送り先の指定として) PC と接続する場合のみ必要に応じて設定</p>
LAN/LINK	LanRspInt	<p>"0~99" (Def=20)</p> <p>PC と LAN で接続した場合の PC 側へのステータス送信周期(10ms 単位) 0 にした場合は、本機内部の他の処理に支障がない範囲で最短周期での送信</p>
LAN/LINK	LanRtryCt	<p>"0~30" (Def=10)</p> <p>LAN 通信での送信リトライ数 現在の所デフォルトのまま (設置先の LAN 環境によっては調整の必要有り) PC と接続する場合のみ必要に応じて設定</p>
LAN/LINK	LanRtryIv	<p>"0~30" (Def=3)</p> <p>LAN 通信での送信リトライ間隔 現在の所デフォルトのまま (設置先の LAN 環境によっては調整の必要有り) PC と接続する場合のみ必要に応じて設定</p>

項目メイン	サブ項目	設定
LAN/LINK	LnkRspMod	<p>Disable 通知しない</p> <p>* RtStsEna 周期ステータスのみ通知 (TimeCode など)</p> <p>* OpStsEna 操作イベントのみ通知 (キー操作など)</p> <p>* EvOpEna Cue 関係操作イベントのみ通知</p> <p>* AllEna 全て通知</p> <p>PC と IEEE1394 で接続した場合の PC へのステータス通知モード</p> <p>PC と接続する場合のみ必要に応じて設定</p>
LAN/LINK	LnkRspUnt	<p>"0~64" (Def=8)</p> <p>PC と IEEE 1394 で接続した場合の PC 側の UnitID.</p> <p>(ステータスの送り先の指定として)</p> <p>PC と接続する場合のみ必要に応じて設定</p>
LAN/LINK	\$LnkBusSpd	<p>"100 200 400" (Def=400)</p> <p>LINK 通信スピード設定. 単位は bps</p> <p>(デフォルトのままで使用してください)</p>
LAN/LINK	\$LnkSchMod	<p>* Normal</p> <p>Model</p> <p>接続先ユニットの探索動作指定</p> <p>(デフォルトのままで使用してください)</p>
LAN/LINK	\$LnkSchSec	<p>"0~30 sec" (Def=3)</p> <p>接続先ユニットの探索時間指定</p> <p>(デフォルトのままで使用してください)</p>
LAN/LINK	\$LnkPtDis	<p>Normal</p> <p>* DisPt1</p> <p>* DisPt2</p> <p>* DisAll</p> <p>LINK ポートのマスク指定</p> <p>(デフォルトのままで使用してください)</p>
LAN/LINK	LnkSysPrmA	<p>"0~32" (Def=4)</p> <p>メーカー内部パラメータ</p> <p>PC と接続したシステムにおいて、状況に応じて設定する</p>

項目メイン	サブ項目	設定
SYSTEM	UnitName	<p>"MDC50A"</p> <p>ユニット名称</p>
SYSTEM	VerInfo	バージョンを表示します
SYSTEM	ExtInfo	<p>"P*,DSK" や "P*,STD" などと表示される.</p> <p>50Ab にインストールされているオプション表示</p> <p>"P*" 使用可能なポート数 "P1/P2/P3/P4"</p> <p>"DSK" DISK ソフトがインストール</p> <p>"STD" VTR ソフトがインストールされているか</p>
SYSTEM	MAC ADR	"000000.000000" MAC ADDRESS を表示します
SYSTEM	DIAG~	メンテナンスで使用します
SYSTEM	DIAG-REF1	Sts:03 Cnt:00 メンテナンスで使用します
SYSTEM	\$SysFrmTyp	<p>NTSC 本機を NTSC 環境で使用する場合</p> <p>* PAL 本機を PAL 環境で使用する場合</p>
SYSTEM	#CfgBnkSv	<p>Non バンク登録しません</p> <p>* Bank1 バンク 1 を登録します</p> <p>* Bank2 バンク 2 を登録します</p> <p>* Bank3 バンク 3 を登録します</p> <p>* Bank4 バンク 4 を登録します</p> <p>* Bank5 バンク 5 を登録します</p> <p>* Bank6 バンク 6 を登録します</p> <p>* Bank7 バンク 7 を登録します</p> <p>* Bank8 バンク 8 を登録します</p> <p>メニュー設定を登録したバンクを登録します</p>

項目メイン	サブ項目	設定
EXTENSION-1	P1-RecCplg	“0001” (Def=0001) ポート 1 選択時に REC コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照
EXTENSION-1	P2-RecCplg	“0010” (Def=0001) ポート 2 選択時に REC コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照
EXTENSION-1	P3-RecCplg	“0100” (Def=0100) ポート 3 選択時に REC コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照
EXTENSION-1	P4-RecCplg	“1000” (Def=1000) ポート 4 選択時に REC コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照
EXTENSION-1	P1-PlayCplg	“0001” (Def=0010) ポート 1 選択時に PLAY コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照
EXTENSION-1	P2-PlayCplg	“0010” (Def=0010) ポート 1 選択時に PLAY コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照
EXTENSION-1	P3-PlayCplg	“0100” (Def=0100) ポート 1 選択時に PLAY コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照
EXTENSION-1	P4-PlayCplg	“1000” (Def=1000) ポート 1 選択時に PLAY コマンドを投げるポートを設定します ※ディスク設定方法(DISK ソフト使用时)参照

※EXTENSION-1 はディスクソフト使用时のみ表示されます。

9.4 エラー表示

エラー表示①

エラー表示	内容
“CUE BANK FULL!”	CUE 登録を行おうとしたときに、BANK バッファがいっぱいの時に表示されます。
“PLEASE CHANGE”, “DISPLAY TC” “PLEASE CHANGE”, “DISPLAY CTL”	CUE CALL, CUE, AE 機能呼び出し時に、メニューの制御 TC 選択と表示の TC 種別が異なっている場合、表示 TC の切替を促すメッセージです。
“PLEASE CHECK”, “EDIT PRESET”	AE 機能呼び出し時に、まだ、メニューで EDIT PRESET されていないときに表示されます。
“CUE-CALL”, “EMPTY”	CUE-CALL 機能呼び出し時に、CUE BANK バッファが空の時に表示されます。

エラー表示②

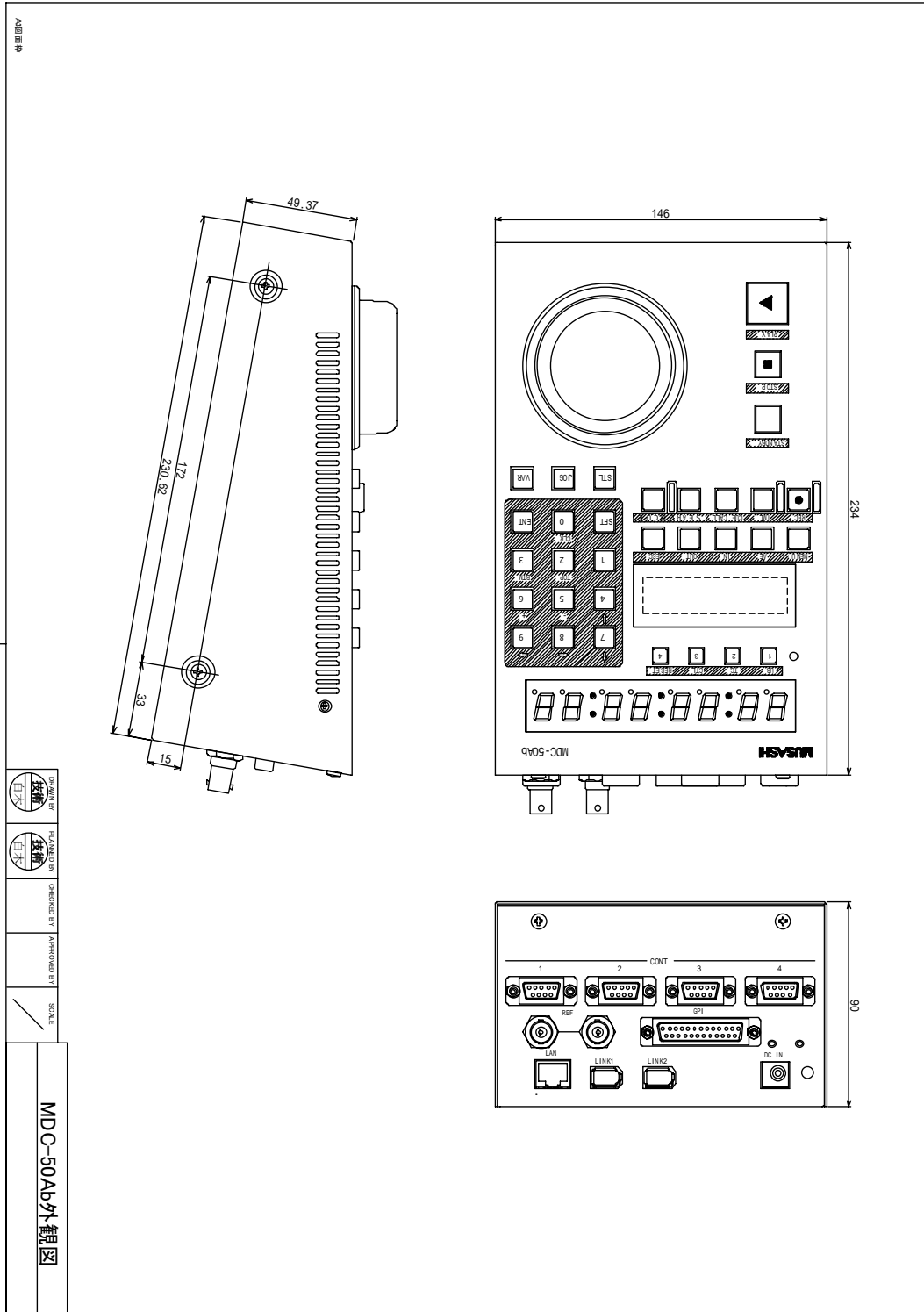
エラー表示	内容
“E0001:APLPRG Err!”	外部フラッシュメモリ上のプログラムデータの異常
“E0003:LANC Err!”	LAN コントローラの異常
“E0007:SRAM Err!”	SRAM の異常
“E0009:HWCFG Err!”	外部フラッシュメモリ上の MAC アドレスデータ等の異常
“E000A:SWCFG Err!”	外部フラッシュメモリ上のプログラムデータ等の異常
“E000B:SYSCFG Err!”	外部フラッシュメモリ上のコンフィグデータの異常
“E000C:EVDT Err!”	外部フラッシュメモリ上の CUE データ等の異常

※エラー表示②及び”SYSTEM ERROR～”のエラーが表示された場合は、メーカーまで問い合わせ願います。

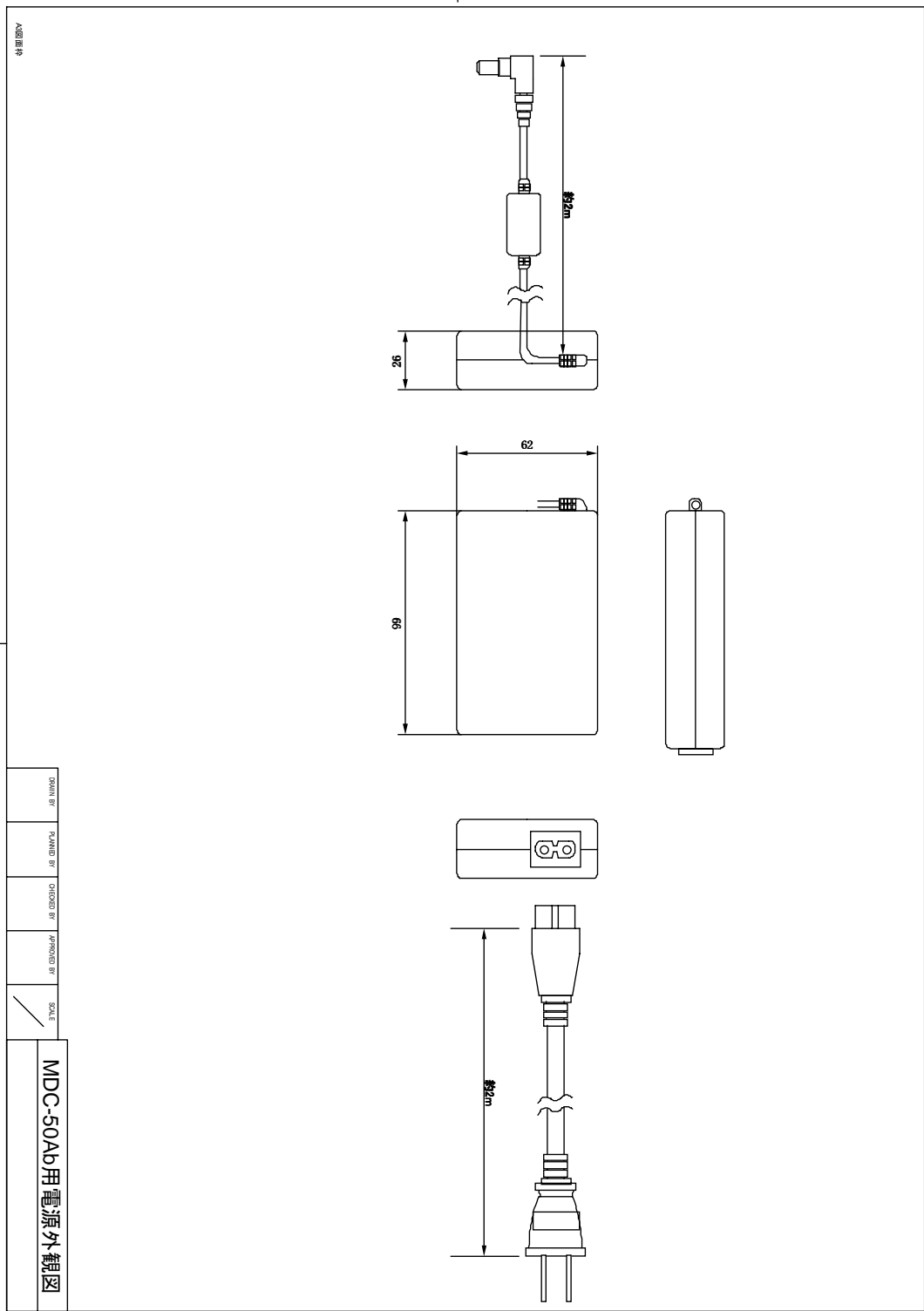
10.仕様

項目	仕様
RS-422 (Dsub9PIN)	1系統(最大4ポート迄増設可能)
GPI(入出力各8ビット、Dsub25PIN)	1系統
LAN(ETHERNET 10/100base RJ-45 コネクター)	1系統(メンテナンス用)
LINK (IEEE1394)	2系統(未使用)
REF(B.B 信号、BNC コネクター ループスルー)	1系統
寸法(mm)	146(w) x 234(D) x 90 奥 ～約50手前(H)
質量	約2 Kg
消費電力	約10W
電源 ACアダプター	INPUT 100-240V ～1.1A 50-60Hz

11.外形寸法



DRAWN BY 塚本 昌彦
 CHECKED BY 塚本 昌彦
 DESIGNED BY 塚本 昌彦
 APPROVED BY 塚本 昌彦
 SCALE 1/1
MDC-50AB外觀図



MUSASHI

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。
電源 220V をご使用の場合は弊社までご連絡ください。